

## 禁煙支援薬による心臓血管病への影響はない

禁煙により、健康や生活の質は大いに改善する。禁煙しやすくするために禁煙支援薬を用いることが推奨される。しかし、禁煙支援薬を使用することにより心臓血管病のイベント発症のリスクが高まるのではないかという懸念もある。

そこで、本研究では、禁煙支援薬として認可されている3種の薬剤：ニコチン代替治療薬（NRT）；ブプロピオン；バレニクリンにより心臓血管病のイベント発症のリスクが増えるのかをネットワーク・メタ分析により検討した。10件の電子データベースを検索し、ランダム化臨床研究の著者らと連絡をとり、米国食品医薬品局の報告についても調べた。適切な63件のランダム化臨床研究のうち、ニコチン代替薬に関するものは21件、ブプロピオンに関するものは28件、バレニクリンに関するものは18件あった。ブプロピオン、バレニクリンでは、心臓血管病のイベント発症のリスクが増えることはなかった（相対危険度はそれぞれ0.98、1.30）。ニコチン代替薬では、心臓血管病のイベント発症のリスクが高くなった（相対危険度2.29）が、大部分がさほど深刻ではないイベントであった。主要な心臓血管病イベントについて調べたところ、ブプロピオンでは予防的効果がみられ（相対危険度0.45）、バレニクリンおよびニコチン代替薬では、明らかに有害であるという確証は得られなかった（相対危険度はそれぞれ1.34、1.95）。  
出典：Circulation 2013. Online Dec.9,2013, doi: 10.1161